

上部消化管内視鏡検査 説明と同意書

平成 年 月 日

担当医師 _____

内視鏡を受けられる患者さんへ

消化器内視鏡検査は、あなたの消化管の中を内視鏡で観察し、診断や内視鏡下の治療を行う補法です。検査中に異常が疑われたときや、消化管の状態をより詳しく把握するために必要に応じて医師の判断で、以下のようなことが行われる場合があります。

- 1) 検査中の消化管の緊張や、精神的緊張を和らげるために、注射による前処置をおこなう場合があります。
- 2) 病変部位に色素液を散布し、病変の性状をより詳しく検討することがあります。
- 3) 粘膜の一部を採取し、組織・細胞の検査を行うことがあります。
- 4) 顕著な出血が見られた場合には、止血処置を行います。

内視鏡検査による偶発症としては、前処置の薬剤によるアレルギーやショック、内視鏡や処置具で粘膜が傷つくことによる出血、穿孔などが報告されています。これらの偶発症については起こらないように細心の注意を払って検査を行っています。万一の偶発症(一定の確率で起こること)に対しては、緊急の処置を含む、最善と考えられる対応を行います。処置に要した費用の一部を負担していただく必要があります。

内視鏡検査による感染等を防ぐため、感染症(B, C型肝炎、梅毒)を含む血液検査を行っています。

同意書

内視鏡担当医師および長津田ファミリークリニック院長 殿

私は、今回の内視鏡検査について担当医師より上記の説明を受け納得しました。内視鏡検査を受けることに同意します。

- 1) 検査実施に関連して緊急の措置を行う必要が生じた場合、医師が必要と認めた処置を行うこと。
 - 2) 医師が検査中必要と判断した、色素液使用、病理組織検査、ピロリ菌検査などを行うこと。
- 上記の事、予め同意します。

平成 年 月 日

患者氏名 _____

なお、患者本人が未成年の場合、または本人が署名できない場合は、代理人(配偶者、保護者、その他親族)が署名してください。

患者 _____ の代理人氏名 _____ 続柄: _____

この用紙は、検査当日受付に提出してください。

内視鏡検査を受けられる方の、鎮静剤のご案内

鎮静剤とは、精神的・身体的に緊張を和らげる作用のある薬です。

検査室に入ってから、静脈注射をします。

注射によって眠ってしまう方もいますが、ほとんどの方は、「ぼんやりしている」「うとうとうとしている」という状態で、検査を楽に受けることができます。

副作用

*稀に、一過性に呼吸抑制が起きたり(検査中はモニターで観察しています)、眠ってしまったことで、検査したことを覚えていなかったり、一時的に眠気が残り判断力が低下してしまうことなどがあります。

注意事項

*睡眠剤・安定剤を常用されている方は、当日内視鏡看護師までお申し出ください。

*当日は車、バイク、自転車の運転・機械の操作・重要な決定は厳禁です。!!!

(運転してこられた方は、鎮静剤を使用できませんのでご注意ください。)

*検査終了後は、休んでからお帰りいただきますので、検査後の予定は入れないようお願いします。

*ご高齢の方は、できる限り付き添いの方と一緒に来院ください。

*検査終了後はまっすぐにご自宅にお帰りください。

*鎮静剤をご希望になられる方は、上記の内容を理解した上で、検査を受けられる本人が同意の有無を記入の上、検査当日にお持ちください。なお、呼吸器疾患等がある場合は、鎮静剤を使用できないこともありますのでご了承ください。

鎮静剤使用を

希望する

希望しない

平成 年 月 日

患者氏名 _____

長津田ファミリークリニック内視鏡担当医師および院長 殿